

「スperl」 ★★★

2009（平成21）年9月28日鑑賞＜G
AGA試写室＞

監督・脚本：サム・ライミ

クリスティン・ブラウン（銀行のローンデスクで働く女性）／アリソン・ローマン
クレイ・ダルトン（大学で心理学を教えるクリスティンの恋人）／ジャスティン・
ロング

ガーナッシュ夫人（ジブシー風の老婆）／ローナ・レイヴァー

ラム・ジャス（呪文研究家）／ディリーブ・ラオ

ジャックス氏（銀行の支店長）／デヴィッド・ペイマー

ショーン・サン・ディナ（霊能者）／アドリアナ・バラツァ

2009年・アメリカ映画・99分

配給／ギャガ・コミュニケーションズ、powered by ヒューマックス・シ
ネマ

＜「90点」に魅かれて鑑賞したが＞

私は新作を鑑賞するについては、ネットで公開されている岡本太陽氏の「米映画
批評」をよく参考にしているが、本作についての彼の評価は「鬼才サム・ライミ監
督の自由な精神を感じる今年最高の映画」とベタ褒めで、何と90点。

私はこの手のホラー映画は苦手だから、「劇場内悲鳴厳禁！」「鑑賞後の放心注
意！！」と書かれていたチラシを見ただけで拒絶反応があったが、岡本氏のこの批
評を見て「こりゃ必見！」と方向転換。

岡本氏が言うように本作はたしかにホラー映画だが、ユーモアのセンスがたっぷ
り詰まっているうえ、呪いをかけてきた老婆ガーナッシュ夫人（ローナ・レイヴァ
ー）とどこまでも直接対決していくヒロイン、クリスティン・ブラウン（アリソ
ン・ローマン）の勇気に感激。美人女優ともなれば、ここまでボロボロにされるこ
とに抵抗感を覚えるのが普通だが、アリソン・ローマンの女優魂はすごい。

そんな努力賞もあり、私にとってこのホラー映画はそれほど恐怖感も違和感もな
かったが、やっぱり私の採点としては星3つ。

＜亀井静香式モラトリアム構想は？＞

2008年9～10月に起きた世界同時金融危機は、2007年秋に起きたアメ
リカのサブプライムローン問題に端を発したもの。その後アメリカ、中国、日本
などの膨大な財政出動＝公的資金投入と、G8やG20など国際協調路線の進展に
よって金融危機は納まったかのように見えているが、さて？他方、2009年8月
30日総選挙で歴史的な政権交代をなし遂げた民主党政権内では、目下亀井静香金
融担当大臣のモラトリアム構想が唱えられているが、これはひょっとして政権内の
火種に？

亀井静香大臣のモラトリアム構想は本作が描くようなクリスティンとガーナッ
シュ夫人の対決を未然に防止するための発想だが、藤井裕久財務大臣や経済界の多く
がそれに反発しているのは当たり前。ミサイルでも飛んできた時なら話は別だが、
今は政府が私人間の取引に無用に介入すべき時期でないことは明かだ。

＜ガーナッシュ夫人もクリスティンもサブプライムローンの被害者？＞

冒頭で見せる汚い手の指、汚い入れ歯をはじめとして、本作で何とも言えない不
気味な「怪演」を見せる老婆ガーナッシュ夫人は、言ってみればサブプライムロー
ンの被害者だから、いかにも今日的な人物像。

他方、ジャックス支店長（デヴィッド・ペイマー）のもとでローンデスクに座
り、ライバルの男性と次長職を争っているクリスティンは、ガーナッシュ夫人のロ
ーンの延長申請を認めるか否かという厳しい審査を自己責任でやらなければならない
いつらい立場。大きな融資案件を成功させるかどうかというビッグプロジェクトで
の成績評価とは別に、個別のローン審査でいかに的確な判断を下していくかが、成
績評価の基準となるわけだ。「仏の顔も三度まで」ということわざがあるように、
ローンの返済が2度ならず3度も遅れれば、その「延長審査は認められない」と判
断するのが普通だが、さてガーナッシュ夫人に対するクリスティンの判断は？

ガーナッシュ夫人はさまざまな泣き落とし戦術を見せたあげく、衆人環視の中で
土下座作戦まで試みたが、クリスティンは延長を断固拒否。すると今度は、ガーナ
ッシュ夫人は手のひらを返すように、敵意をむき出しにしてクリスティン襲いかか
ってきたから大変。ガーナッシュ夫人から逆恨みされコートのボタンを引きちぎら
れた拳句「次はお前さ。私に請いに来るんだ」と宣言されたうえ、奇妙な呪文をか
けられたクリスティンも、実はサブプライムローンの形をかえた被害者？

＜「苦しい時の神頼み」の効果は？＞

本作はサム・ライミ監督が実兄のアイヴァン・ライミと共に脚本を書いたホラー
映画だからそのオリジナリティとひねりの効いたストーリー展開が恐怖を煽る映像
効果と共に本作の売り。クリスティンがガーナッシュ夫人からの3度目の延長申請
を拒否したため大乱闘になったうえ呪われるというのはえらい迷惑な話だが、そう
なるとストーリーは必然的に呪文や靈感というワケのわからない世界に入っていく
ことになる。クリスティンの恋人クレイ・ダルトン（ジャスティン・ロング）は大
学で心理学を教える学者だから、急にワケのわからないことを言い始めたクリステ
ィンを心配し、呪文や靈感の世界に入ることを止めようとしたのは当然だ。

しかし、クリスティンはそんなクレイの制止を振り切り、呪文を専門的に研究し
ているラム・ジャス（ディリーブ・ラオ）やショーン・サン・ディナ（アドリア
ナ・バラツァ）の元へ飛び込んだが、さて「苦しい時の神頼み」の効果は？

＜あなたはハッピーエンド派？それとも？＞

「ネタバレ禁止」はホラー映画の原則だが、脚本にヒネリを利かせ映像にもあつ
と驚く工夫をこらした本作には特にそれが妥当する。しかし、そうやってしまうと
身も蓋もないので、本作のストーリー構成上大切な小道具になるのが、ガーナッ
シュ夫人が引きちぎったクリスティンのコートのボタンであることだけは書いておき
たい。クリスティンの熱演が最高に表現されるのは、死体となって眠るガーナッ
シュ夫人の棺桶をクリスティンが掘り返し、呪いのかけられたボタンをたたき返すシ
ーン。美しい顔を泥まみれの水の中に突っ込むシーンには、あなたもきっと驚くは
ずだ。

そんなバトルの甲斐あって、呪いのかけられたボタンがガーナッシュ夫人の棺桶
の中に永久に閉じ込められてしまえば問題は解決。あとは、クリスティンとクレイ
の新婚旅行（？）というハッピーエンドを迎えるばかり？いやいや、ライミ兄弟が
練りに練った脚本は、そんな単純なものではないはずだ。あなたがハッピーエンド
派かそうでないかは知らないが、最後に明らかになるあつと驚く結末まで、決して
集中力を切らさないように。

2009（平
成21）年9月30日記